

先輩の一言は 今でも常に私の中に 存在し続けています



茅野 理恵 *Chino Rie*

学術研究院教育学系 助教
(教育学部 学校教育教員養成課程 心理支援教育コース 助教)

千葉県出身。信州大学教育学部卒業。長野県内の中学校に勤務の後、筑波大学大学院教育研究科へ進学。大学院修了後、茨城県の龍ヶ崎市教育センター、筑波学院大学学生相談センター等を経て、2012年信州大学総合健康安全センターカウンセラーとして着任。2015年より現職。

【学生へのメッセージ】

カウンセラーとして勤務していたので、学生のみなさんからの「自分には何が向いているのかよくわからない」、「自分の一番やりたいことがみつからない」という言葉をよく耳にしていました。私は、40代半ばになりましたが、何が一番なのかは未だにわかりません。ただ、その時々やりたいと感じたことに挑戦していくことができれば、それでよいのではないのでしょうか。思い描くように進める時ばかりではなく、むしろ苦戦の連続という時もあります。「あきらめず」「くさらず」に取り組み続けることが次の道を拓いていくのだと思います。社会的評価だけに気をとられず、自分自身をいたわる目を持つことも忘れず、そしてさらに人との縁を大切にしながら進んでいって欲しいと思っています。

2009年に末娘が誕生。この年は、夫が信州大学に着任した年でもあり、夫が単身赴任中での仕事、育児、出産。どうなることかと思いましたが、なんとかなるものです。



長野に引っ越してきて、3人揃って新しい保育園に入園。ひとり抱っこして、2人の手を引き、3人分のお昼寝布団を背負って登園した日もありました。懐かしい。



朝の登校前の20分間は、長男と次男のサッカー自主トレタイム。お父さんとの大事なコミュニケーションの時間でもあります。

File
9

簡単には出ない答えを 求めることこそ 充実した時間

学部生時代の自分は、まさか将来の自分が大学の先生をしているなんてこれっぽっちも思っていません。教育実習での経験に大きく進路を左右され、大学卒業後は中学校の教員として社会人をスタートしました。そこで、様々な課題を抱える子どもたちと出会い、共に生活をする中で、問題と言われる行動の背景について考えざるを得ない状況になり、心理学というものに興味を持ち始めました。

学校心理学は、発達心理学や社会心理学、教育心理学や臨床心理学などの知見を活用しながら、子どもたちの苦戦を援助し、成長を促進する活動を行っています。目の前にいる子どもたちに対して、この子が少しでも生きやすくなるために何ができるか、より充実した生活のためにできることは何かあるのかと考えています。日々現場で悪戦苦闘している先生方と共に、簡単には出ないその答えを求めて頭を抱え、過ごす時間が私にとって充実した時間になっているのだと思います。

保育園は 重要なパートナー

我が家は、夫も同じ職場の同業者です。出会った頃も同じように中学校の

教員でした。家庭生活を維持する上で、このことのメリットはとても大きいと感じています。今、何に忙しいのか、何が負担感の大きい仕事なのかなど、互いにキャッチしやすい環境にあると思います。全ての家事は、できる人ができる時にする。これにつきます。家事の明確な分担はありません。できる時にいつでも、子どもは毎日ご飯を食べますし、時には熱も出します。必要な時にやるしかないということではありますが…。そして、我が家にとって乳幼児期の子育ての重要なパートナーは、保育園でした。3人全て4～5か月での保育園デビューです。このパートナーが存在しなかったら、子どもを3人育てることはできなかったなど実感しています。

そんな恵まれた環境にあって、私の中での仕事と家庭の両立の難しさは、時間の使い方や家事の分担よりも、両立すればするほど自分の中にわき上がってくる「何もかもが中途半端」という思いへの対処です。そんな時にふと思いつく言葉があります。「優先順位を間違わないように気をつけて!」この言葉は、夫婦共働きで子育てをしてきた先輩から、当時大学院生であった私へのものでした。この言葉の続きには、「うちのちゃん間違っちゃって後悔しそうでからね!」という言葉が隠れていたと思っています。この時、とても深く考えさせられたのをはっきり覚えています。その時々で、何を優先することが正しいのか答えがない中で、今でも常に私の中に

存在し続けている言葉です。

いろいろな人の 支えがあってこそ

大学生活は、こまき寮生としてスタートしたこともあり、たくさんの友人に恵まれました。様々な学部の友人たちから多くの刺激をもらい、やりたいと思ったことにはどんどん挑戦していく、そんな学生時代でした。学部生の時は、サークルやバイトに明け暮れる日々。やりたいことを実現させるには、いったいどんな準備が必要なのか、そのための時間や費用はどう捻出していけば良いのか、この頃に楽しんでやっていたことが今に生きている部分は大きいと感じています。

●●仕事の相棒!

カレンダー



我が家の生活に欠かせないのが、家族カレンダー。これでお互いの予定を把握します。出張も優先順位をつけて譲り合いです。子どもたちは、カレンダーを見て「今日はお父さんの日」「今日は全員いる!」と確認して学校に行きます。